

普段着のわたしたち

新年明けましておめでとうございます。

昨年は富士山を観ることができました。日本に山は多けれど、富士の山は別格ですね。どうか噴火しませんように。何事も無



く平穏無事な一年でありますよう祈念しております。

征阿

明けましておめでとうございます。

いつも買い物をするスーパーで、滝川クリステルさんが剃髪して尼僧さんになったような目がくりくりとして藍の法衣姿が凛々しい素敵な女性僧侶の方に会います。

「お・も・て・な・し」とされたら…、「刀とうようりんじごく葉林地獄に落ちてもいい！」と思う日々です。今度お会いしたら、一休禅師のように弟子からエロ爺と呆れられてもナンパするのか、はて良寛さまのように生涯プラトニックラブを貫くのか！ 悩ましい二択です。

あっちにふらふら、こっちにうろうろ暴走している私を誰か止めてください。そんな私には、石炭焚き過ぎぎみの機関車が迷走しているような

あなたしかいません。それって「毒を以って毒を制



す」？ ちょっと違う気がするけど… 迷走坊さん 2019 年もよろしく。

俊徳丸

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

「6 と 9 の法則」で西暦の末尾が 6 と 9 の年は暖冬なのだから。



昨年、豪雨や台風で罹災された方々のためにも、寒いのが大嫌いな私と愛猫のためにも、幾分穏やかな冬であって欲しいと願います。

皆々様にとって、幸せな一年でありますように。

訶梨帝母



献上一献！

誰ですか、こんな旨い酒を造って売ってるのは……。佛教

ふ おんじゆかいに不飲酒戒の定めがあるのは、飲むと往々にして歯止めが効かなくなるからですよ。

とは言え、お正月ぐらいは法然上人の逸話が救いかなあ。「酒を飲むのは悪ですか」と問われて、「本当は飲んではいかんけど、世のならいだから」とお答えになりました。

飲み方としては、若山牧水の歌の下の句のように、「酒はしずかに飲むべかりけり」あたりが宜しいかと。

迷走坊

『友引町内会通信』はパソコンやタブレットでもお読みいただけます。検索は <http://www.daigoji-temple.jp/> 「友引町内会通信」をクリックしてください。寺務局

京都、嵐山は天龍寺。臨済宗天龍寺派大本山。世界遺産にも登録されている禪刹。訪れたことのある方も少なからうかと思いますが。その山内の大方丈におわします龍をご存知でしょうか。



この龍の襖絵の作者は若狭物外さぶつがい（1887～1957）。義父から「これは私のおじい子供の頃、国鉄に乗って京都のおじい家に遊びに行

ったもんだ」と聞きました。あらまあお義父さん、絵描きさんの血筋であらしいましたか！と最初は驚きましたが、夫は会った事のないヒー爺さんに特に興味もなく、普段の家族親族集いの場でそんな話が出る

ことも無く、誰一人として絵に携わつてもおらず。

時に嵐山に出かける機会に恵まれると、「あ、そう

いえば：」と思い出し、龍サマのご尊顔を拝しに行く程度。



若狭物外。秋田県出身。東京藝術学校卒

後、山元春挙に弟子入りするも自ら絶縁

（短気の変わり者？夫の家系に・・・いる

いるそんな人）。富岡鉄斎唯一の孫弟子（あ

知ってるその名前）。天龍寺第八代管長関牧

翁老師の友人で請われてこの龍を描き上げ

た。その四ヶ月後に七十歳で没（絶筆だと

お義父さんが言ってたわ。老骨に鞭打ち、

力尽きて大往生ってことね）。戒名

は画龍院如意物外居士（まっ！す

ごい戒名。管長さんからの感謝の

意が感じ取れます）。夫ですら興味

のないヒー爺さん、ましてや私に

としては全くの他人事。

こもりうた(48)

ところが先日、幼稚園の作品展に行き愚

息の絵を見て「ををを！年中組の中では

ピカイチ上手いじゃないか！。何が描いて

あるかちゃんとわかるぞ。他のお友達のは

クレヨンの試し書きのようじゃ」と心中で

大絶賛。担任の先生からも「お絵描きの時

だけはすごく集中していて、とても上手で

す」（それ以外は散漫でダメダメ君ってこと

ですね）とお褒めの言葉をいただきました。

途端、「君は物外の玄

孫。血を受け継いで

いるのよ」と愚息に

言い聞かせ、いつも

カレンダー裏をお絵

描きに使っています

が、画用紙を買い与



え、天龍寺にも連れて行こうと思いました。

ただのバカな親の話では

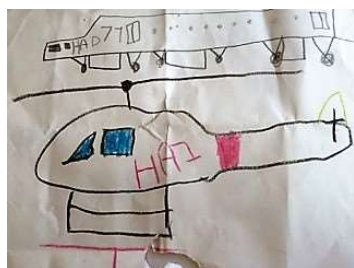
ありますが、些細な芽を

見つけて大喜びする親バ

カくらいやってないと子

供なんて育てられないと

も思う次第。



初詣に嵐山天龍寺に行かれた際にはぜひ

ご覧いただき、「これが訶梨帝母の息子のヒ

ーヒー爺さんの龍か」とほくそ笑んでくだ

さいませ。ちなみに、天龍寺には平成九年

に描かれた法堂の天井画雲龍図の方が有名

です。こちら入山料別途五百円也。

訶梨帝母

『ガンジスに還る』

最近、何かというと「く活」です。生徒たちが省略表現として部活（クラブ活動）

といい、学生たちが同様に就活（就職活動）といったはじめました。ちょっとした厄介さを匂わせる表現です。その後に見れた、たとえば「婚活」は、自然発生的な表現ではなく、近頃の結婚事情を説明するためにコメンテーターが使った、いわば擬似省略表現です。同じようにしてできた新語に「パパ活」「朝活」があるのはご存じでしょうか。

そういう「く活」の一つに「終活」があります。人生の終わりを意識した、特に高齢者が、その人生の終わりをどのように迎える、締めくくするか、あれこれ考え準備することを指します。すっかり市民権を得た表現になっています。

先日、『ガンジスに還る』というインド映画を見ました。死期を悟った老人が、バラナシ（ガンジス河畔の町。英語綴りの読み方でベナレス）へ行って死ぬのだ、と決

意するところから物語は始まります。ヒンドウの老人の「終活」を描き、当然死を主題としていますが滅入るような話ではありません。

病気が重くなり、死に際に至ったとき、人は命がつきることを自覚するかもしれませんが、それで、死期を悟った、とは言いません。死期を悟るのは、個人の心に神秘的なできごとが出来たときです。

ダヤ老人は、まだ元気ですが、幾晩か不思議な夢を見続けます。ダヤにとっては、死期が近いと思うのに十分に異常なできごとです。が、まわりの者はそうは思いません。会社員の息子は、ダヤにバラナシ行きを思いとどまるよう強く説得します。それでも、ダヤは頑として主張をまげず、バラナシ行きを決行します。

やがて訪れる死の時は、ヒンドウの信仰者にとって生の終焉ではなく、解脱に至る過程の一つです。厭うべきものではありません。バラナシの町では、ダヤのように、輪廻からの解放（解脱）を信じ、その時がきたことを自覚した人たちが、まるで

湯治場で憩うように、死を待ち受けて、めいめいの生をゆつたりと生きています。

ダヤが滞在するのは「救いの宿」。大学病院でも医療施設でもありません。インド式の老人ホームです。英語で Hotel Salvation（字幕では「解脱の館」）、これがこの映画の英語原題です。

宿に滞在する間、ガンジスでの沐浴を始め、岸辺での茶毘などバラナシで日常的に起こるあらゆることをダヤは体験し、いろいろ学んでいきます。ある日、「死ぬにはまだ努力が足りません」と述懐するダヤに、宿で知り合った老婦人は、「中途半端な努力では死は訪れません。死は意志により訪れるのです」といつてはつとさせます。滞在28日目、その努力が報われたのでしょうか、老婦人のあとを追うように、ダヤは死の時を迎えます。観客は、厳かな気持ちと同時に、「よかった」とでもいうような、祝福の気持ちを味わいます。前向きの心で死と向かい合ったダヤに、私は軽い嫉妬と小さな感動を覚えました。

（散歩道）

仲良く仕事を

私の亡き母は、生前に「骨肉腫」という珍しい病気を患い一年近く大学病院の外科病棟に入院していました。結局それが原因で左足全体を切断し数か月後に亡くなりました。平成 12



年のことです。入院中、母には何度も危険な状態が訪れました。その度に私は病室の消灯後に病棟廊下のソファで夜を明かすことになります。夜中でも明かりがついている医局の前のソファです。こんな夜が数日続きます。

いつもこのソファで深夜を過ごしているのは私一人ではありません。スーツ姿の若い人が座っています。時には3名、時々若い女性の時もありました。患者の家族ではなさそうです。後で看護師さんに聞いたのですが製薬会社のセールスの人たちだそうです。大学の薬学部を卒業しても全員が薬剤師や新薬の開発等の職につくことはできないそうです。担当の先生方が携わる手術終了や、その他の会合等の都合で医局に戻るのが遅れると、こうして深夜まで廊下で待っているのだそうです。失礼ながら、だれもない医局を廊下の窓から覗き見してみると、黒板の予定表には「〇〇製薬ボーリング大会」、「ゴルフ…」とあります。大学病院で薬を使って貰うのは社運がかかっているのだと彼らの姿が物語っていましたし、薬剤師さんは

世の中で余っているのでしょうか。

先日のニュースで妊婦さんが風邪などで医師の診察を受けた時に、私達より余分に診察料を支払っていたことを初めて知りました。昨年の春からです。これでは益々日本の少子化は進むのではないかと憤りを感じます。テレビでのニュース解説では、この制度を設けた理由の一つに、産婦人科以外の先生が妊婦さんに処方する薬の知識がなく、胎児に対する後遺症等の不安から診察自体を拒否することが多く、それを防ぐために設けられたそうです。でもそれが本当だとしたら、追加料金さえ払えば診察してくださる医師などは、こちらから御免こうむりたいと思うのは私だけでしょうか。

現在、私も血圧の薬を服用しています。診察後会計を済ませ、先生の出した処方箋を持って薬局へと向かいます。提出してあつと言う間に薬が出てきます。前回私のGショックで測ったら1分27秒でした。だって先生の記入通りの薬を日にち分袋に入れるだけですから。ちなみにその一連の作業の様子を観察すると、コンビニのレジの人の仕事の方がずっと多種複雑で難しいとさえ思いますし、機械化も可能ではないでしょうか。むろん薬の説明や注意点は丁寧にしてください。でも素人目の私が見る限り、せつかく高額な授業料を払い苦勞して勉強しても、悲し過ぎるのが今の日本の薬剤師さんでしょう。医師と薬剤師との上下関係の差が大き過ぎると思います。お医者さん、妊婦さんへの薬の知識が無いと言わず、仲良く薬剤師さんと協力して仕事してくだされ。 俊徳丸

『私説法然伝』（48）

回心回天③

先月号では法然上人の出会われた『観経疏』の著者の善導大師について書きました。今月号はその続きについて書きます。

【法然上人は『観経疏』の「散善義」という巻にある「一心専念弥陀名号行住坐臥不問時節久近念念不捨者是名正定之業 順彼佛願故」（一心にもつばら阿弥陀佛の名号を念じて、行住坐臥に時節の久近を問わず、念々に捨てざる者、是れ正定の業と名づく。彼の佛の願に順ずるが故に）の一節を読まれた時に「回心」（心を改める事）されたと伝記にある。

法然上人は三度にわたって『観経疏』を読まれ、三度目にして回心されたのである。つまり、三度のうちの二度での読み方と、三度目の読み方に変化があったのである。

『観経疏』は『観無量寿経』の注釈書で、

四つの巻で成り立っている。第一巻となる「玄義分」において『観無量寿経』という經典の意義・エッセンスが述べられている。「散善義」は第三巻目にあたる。その中の一節・一文に法然上人の人生、または日本の歴史を塗り替えるきっかけとなる内容があった。

この一節は「順彼佛願故」以外だけを読むと「常に念佛する人は必ず往生する」という自分の力で往生するのだという意味合いになる。そこに「順彼佛願故」の一文が加わると、「彼の佛の願に順ずる」Ⅱ「願いが成就して阿弥陀佛となった佛の力によって、念佛する人は必ず往生する」という意味になる。

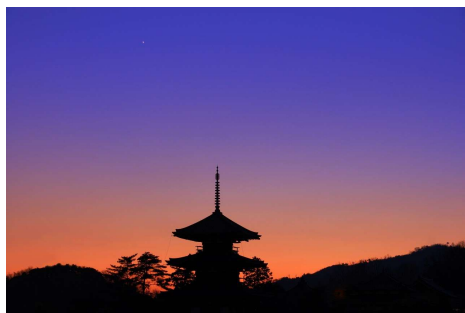
自分自身の力やはたらきで往生する、という「分別」の中で法然上人は『観経疏』を読まれていた。三度目に読まれた時にこの一文に込められた大きな意味に気がつかれた。自分の力やはたらきではない、阿弥陀佛という佛の力・はたらきによって往生する、つまり「他力」という真理に気がつかれたのである。

阿弥陀佛とは法蔵菩薩が全ての衆生を救うという願いⅡ本願（第十八願）を成就して佛となった佛。そこに法然上人自身が救われたいという願いも入っている、そしてその願いは成就されている、そう確信されたのだろう。その確信を回心と言う。また言い換えれば「分別」を越えたのである。

法然上人四十三歳の年、承安五年（一一七五年）春の事だったという。】

法然上人が「回心」された承安五年（一一七五年）は法然上人が浄土宗を開かれた「立教開宗の年」ともされています。法然上人は回心されてからどのような人生を歩まれていかれたのでしょうか？

以下次号に続く（征阿）



賀の祝い

お寺では年末に新年の年回表を貼り出します。除夜の鐘や新年のご挨拶に来られる方々が確認できるようにするためです。

「え、お正月と先祖供養が関係あるの？」

天皇陛下の宮中祭祀の中で最も重要とされているのがお正月の四方拝です。元旦の午前5時30分から宮中三殿（賢所・皇霊殿・神殿）に付随する神嘉殿の南庭の御座で行われます。伊勢神宮・山稜（天皇の墓所）及び天地四方の神々を拝す儀式でその年の災いを祓い豊作を祈願されると言われています。（一般公開されていません）

民間で古来から行われていた儀式は「年籠」がそれに当たるでしょうか。一家の

代表が大晦日から元旦にかけて氏神や寺院にこもり先祖の霊を迎えたのです。この風習が夜にお参りする除夜詣になり、



元旦にお参りすることを初詣と呼ぶようになったのです。



さて、その年回表を準備していた時です。一周忌（平成三十年）から始まって百回忌（大正九年）へきてハタと、「と言うことは、大正十年生まれのウチの老僧はお正月を迎えると数え年九十九、白寿！」百という字から一を引くと白になるところから99歳のお祝いです。

昔と今では長寿の意味合いが違ってきたと思いませんか。古稀（70歳）や傘寿（80歳）或いは米寿（88歳）を迎えても元気に毎日を過ごす方が増え、白寿を迎える方も全国で数万人おられるとか。

「長寿の秘訣は？」というご質問を時々受けます。我が畏友和田邦治師なら「途中で死なんこっちゃ」と答えるかも。ウチの老僧は「くよくよしないこと」と言います。幸い、認知症が現れていません。

99歳、100歳とお祝いが続きますが、プレゼントに物をあげても「今使うのはもったいない」と取っておくかも知れません。

還暦は中国から始まった風習ですが、長寿のお祝いは国によって特色が現れています。カンボジアではお坊さんと呼んで一緒にお祝いをしてもらう習慣があります。イギリスやオランダでは100歳の誕生日に女王からお祝いのカードが届くそうです。

「浜までは海女も蓑着る時雨かな」海へ潜って漁をする海女さんは毎日全身濡れるのが当たり前。しかし、時雨ほどの小雨でも降っていれば、家から浜までの短い距離を歩く時でも蓑笠をつけて濡れないように身体をいとう。み佛から両親を通じて賜った身体は、そのように大事にするものと、昔から言い伝えられてきました。

娘よ、我が一族で初めてのギネス記録（117歳）への挑戦者かも知れんぞ。

迷走坊

観経物語(125)

正宗分(しょうじゅうぶん) その79

散善(さんぜん) 下品下生その2

《本文》その2

是の如く至心に声をして絶えざらしめ、十念を具足し、南無阿弥陀佛と称えしむ。佛の名を称うるが故に、念念の中に於いて、八十億劫の生死の罪を除く。命終わるの時、金蓮華の、猶、日輪の如くなるもの(または「猶、日輪の如くにして」)その人の前に住まるを見る。一念の如き頃に、すなわち極楽世界に往生することを得たり。蓮華の中に於いて、十二大劫を満たして、蓮華の方(はじめて・又は「まさに」と読む)めて開く。

《意味・訳文》

高い徳の友人が言う通りに、阿弥陀佛の(その功德を心に念ずるのでなく)至心(真心)を込めて、その御名を称える声を途切れさせることなく、十念を満たして南

無阿弥陀佛と称えさせ、佛の名を称えるのであるから、一念一念と重ねて称える間に、八十億劫にわたる生死を繰り返す輪廻を続けなければならないほどの罪惡を消し去ることになる。

そして、いよいよ臨終の時になると、あたかも太陽の光の輪のような金色の蓮華が、その人の前に立っているのを見る。かと思ふと、一念の如きの間に、たちまち極楽世界に往生することができる。蓮華の花の中に閉ざされて十二劫の長い年月を経たのちに、蓮華の花が初めて開く。

《私訳》

ここにきて念佛とは、心に阿弥陀佛を思い浮かべたり、または心を集中させたりすることは、愚かな心・邪念のままの人達や八十億劫にもわたる輪廻を繰り返さなくてはならないほどの罪を犯すような人達には出来ないことであり、そういう人達の臨終の念佛の十念とは、阿弥陀佛のことを心に刻み込んで忘れずに一念ごとに阿弥陀佛の功德に思いいたるという「憶念」のこと

ではなく、ただ阿弥陀佛の御名を十回称えるという十声の念佛のことだと説き明かされました。

ここで大切なことは、十声の念佛すなわち十念を称える人の心の中には、極楽に往生したいという願い(発願)も無ければ、ただの一行ではあるが修行すると言った行(唯行)の心も備わっていない、という点に気をつけましょう。

《妙星齋》

